

結果の概要

1 結果の要約

(1) 出生数は増加

出生数は100万5656人で、前年の100万3539人より2117人増加し、出生率（人口千対）は8.0で前年と同率となっている。

出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、29歳以下の各階級では前年より減少しているが、30歳以上の各階級では前年より増加している。

また、出生順位別にみると、第1子では前年より増加しているが、第2子及び第3子以上では前年より減少している。

(2) 死亡数は増加

死亡数は129万428人で、前年の127万3004人より1万7424人増加し、死亡率（人口千対）は10.3で前年の10.1より上昇している。

死因別にみると、死因順位の第1位は悪性新生物（全死亡者に占める割合は28.7%）、第2位は心疾患（同15.2%）、第3位は肺炎（同9.4%）となっており、死亡者のおよそ3.5人に1人は悪性新生物で死亡している。

(3) 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△28万4772人で、前年の△26万9465人より1万5307人減少し、自然増減率（人口千対）は△2.3で前年の△2.1より低下し、数・率ともに9年連続で減少かつ低下している。

自然増減数が増加した都道府県は、沖縄県（5615人）、愛知県（1557人）、東京都（1537人）、滋賀県（115人）であった。

(4) 死産数は減少

死産数は2万2621胎で、前年の2万3524胎より903胎減少し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は22.0で前年の22.9より低下している。死産率のうち、自然死産率は10.6で前年と同率、人工死産率は11.4で前年の12.3より低下している。

(5) 婚姻件数は減少

婚姻件数は63万5096組で、前年の64万3749組より8653組減少し、婚姻率（人口千対）は5.1で前年と同率となっている。

平均初婚年齢は夫31.1歳、妻29.4歳で、夫妻ともに前年と同年齢となっている。

(6) 離婚件数は増加

離婚件数は22万6198組で、前年の22万2107組より4091組増加し、離婚率（人口千対）は1.80で前年の1.77より上昇している。

表1 人口動態総覧

	実 数 (人、胎、組)			率		平均発生間隔	
	平成27年 概数	平成26年 確定数	対前年増減	平成27年 概数値	平成26年 確定値	平成27年 概数値	平成26年 確定値
出 生	1 005 656	1 003 539	2 117	8.0	8.0	31s	31s
死 亡	1 290 428	1 273 004	17 424	10.3	10.1	24s	25s
乳児死亡	1 916	2 080	△ 164	1.9	2.1	4h 34m 19s	4h 12m 42s
新生児死亡	902	952	△ 50	0.9	0.9	9h 42m 42s	9h 12m 6s
自然増減	△ 284 772	△ 269 465	△ 15 307	△ 2.3	△ 2.1	…	…
死 産	22 621	23 524	△ 903	22.0	22.9	23m 14s	22m 21s
自然死産	10 858	10 905	△ 47	10.6	10.6	48m 24s	48m 12s
人工死産	11 763	12 619	△ 856	11.4	12.3	44m 41s	41m 39s
周産期死亡	3 729	3 750	△ 21	3.7	3.7	2h 20m 57s	2h 20m 10s
妊娠満22週 以後の死産	3 064	3 039	25	3.0	3.0	2h 51m 32s	2h 52m 57s
早期新生児 死 亡	665	711	△ 46	0.7	0.7	13h 10m 23s	12h 19m 14s
婚 姻	635 096	643 749	△ 8 653	5.1	5.1	50s	49s
離 婚	226 198	222 107	4 091	1.80	1.77	2m 19s	2m 22s

	平成27年 概数値	平成26年 確定値
合計特殊出生率	1.46	1.42

注：出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は人口千対。乳児死亡・新生児死亡・早期新生児死亡率は出生千対。死産率は出産（出生＋死産）千対。周産期死亡率及び妊娠満22週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対である。

2 出生

(1) 出生数

平成27年の出生数は100万5656人で、前年の100万3539人より2117人増加し、出生率(人口千対)は8.0と前年と同率となっている(表1)。

出生数の年次推移をみると、昭和24年の269万6638人をピークに、昭和50年以降は減少と増加を繰り返しながら減少傾向が続いており、平成23年から減少していたが、5年ぶりに増加している(図1)。

母の年齢(5歳階級)別では、母の年齢が30歳以上の階級では前年より増加し、出生順位別では、第2子及び第3子以上では減少したが、第1子では増加している。

母の年齢が40歳以上の出生では、出生数は約5万4千人であり、うち第1子は約2万1千人で、40歳以上の出生に占める第1子の割合は39.1%となっている。(表2)

第1子出生時の母の平均年齢は上昇傾向にあり、平成27年は30.7歳となっている(表3)。

図1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移

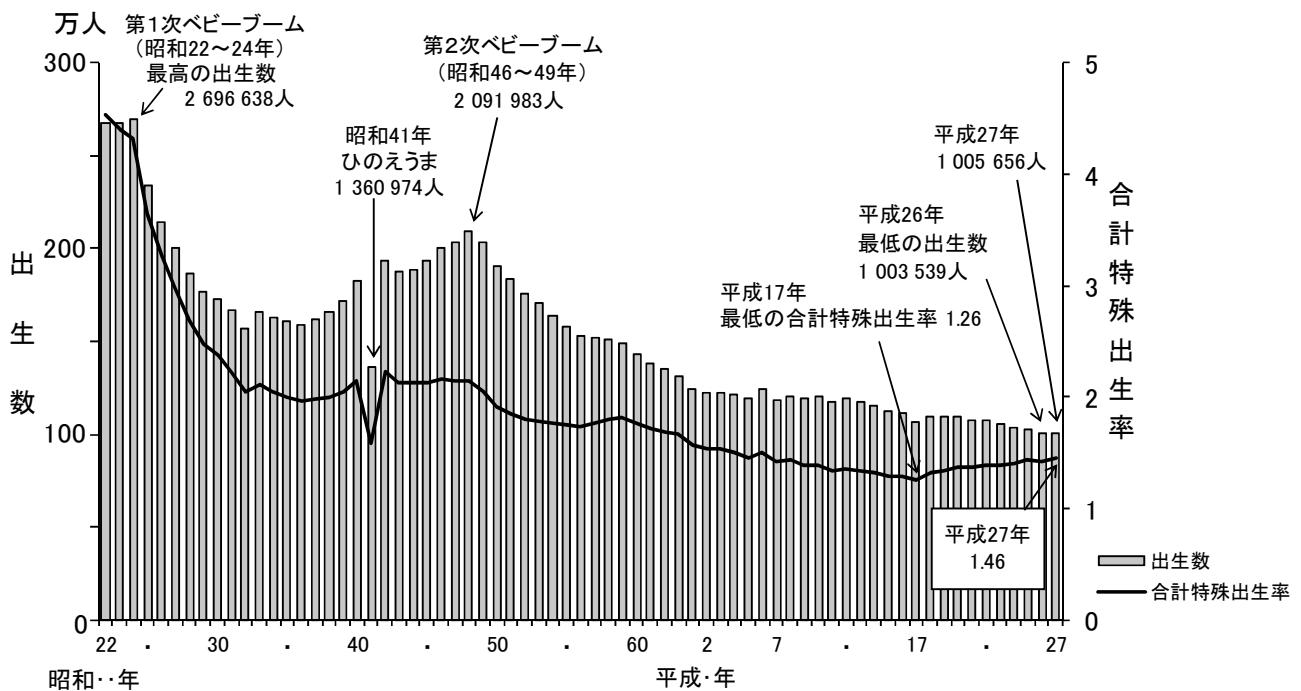


表2 母の年齢（5歳階級）・出生順位別にみた出生数の年次推移

母の年齢	出生数（人）				対前年増減（人）		
	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	25年-24年	26年-25年	27年-26年
総数	1 037 231	1 029 816	1 003 539	1 005 656	△ 7 415	△ 26 277	2 117
19歳以下	12 770	12 964	13 011	11 927	194	47	△ 1 084
20～24	95 805	91 250	86 590	84 459	△ 4 555	△ 4 660	△ 2 131
25～29	292 464	282 794	267 847	262 251	△ 9 670	△ 14 947	△ 5 596
30～34	367 715	365 404	359 323	364 863	△ 2 311	△ 6 081	5 540
35～39	225 480	229 741	225 889	228 289	4 261	△ 3 852	2 400
40～44	42 031	46 546	49 606	52 557	4 515	3 060	2 951
45歳以上	960	1 116	1 272	1 308	156	156	36
第1子	484 710	481 418	474 196	478 071	△ 3 292	△ 7 222	3 875
19歳以下	11 417	11 660	11 618	10 546	243	△ 42	△ 1 072
20～24	63 625	61 033	58 556	56 999	△ 2 592	△ 2 477	△ 1 557
25～29	163 841	158 323	152 493	153 003	△ 5 518	△ 5 830	510
30～34	153 147	152 245	151 727	155 198	△ 902	△ 518	3 471
35～39	76 849	80 051	80 142	81 254	3 202	91	1 112
40～44	15 413	17 609	19 084	20 448	2 196	1 475	1 364
45歳以上	413	496	575	622	83	79	47
第2子	382 461	379 466	364 763	363 219	△ 2 995	△ 14 703	△ 1 544
19歳以下	1 292	1 240	1 317	1 315	△ 52	77	△ 2
20～24	26 981	25 300	23 244	22 814	△ 1 681	△ 2 056	△ 430
25～29	96 211	92 517	85 469	81 230	△ 3 694	△ 7 048	△ 4 239
30～34	149 088	148 301	143 580	144 596	△ 787	△ 4 721	1 016
35～39	93 047	94 263	92 201	93 249	1 216	△ 2 062	1 048
40～44	15 568	17 534	18 602	19 660	1 966	1 068	1 058
45歳以上	274	311	350	354	37	39	4
第3子以上	170 060	168 932	164 580	164 366	△ 1 128	△ 4 352	△ 214
19歳以下	61	64	76	66	3	12	△ 10
20～24	5 199	4 917	4 790	4 646	△ 282	△ 127	△ 144
25～29	32 412	31 954	29 885	28 018	△ 458	△ 2 069	△ 1 867
30～34	65 480	64 858	64 016	65 069	△ 622	△ 842	1 053
35～39	55 584	55 427	53 546	53 786	△ 157	△ 1 881	240
40～44	11 050	11 403	11 920	12 449	353	517	529
45歳以上	273	309	347	332	36	38	△ 15

注：総数には母の年齢不詳を含む。

表3 第1子出生時の母の平均年齢の年次推移

	昭和50年	60	平成7年	17	24	25	26	27
平均年齢（歳）	25.7	26.7	27.5	29.1	30.3	30.4	30.6	30.7

(2) 合計特殊出生率

平成27年の合計特殊出生率は1.46で、前年の1.42より上昇している。

年次推移をみると、平成18年から上昇傾向が続いていたが、平成26年には低下し、平成27年は再び上昇している。

年齢（5歳階級）別にみると、24歳以下の各階級では低下し、25歳以上の各階級では上昇しており、最も合計特殊出生率が高いのは、30～34歳となっている。（表4-1、図2）

出生順位別にみると、いずれも前年から上昇している（表4-2）。

都道府県別にみると、沖縄県（1.94）、島根県（1.80）、宮崎県（1.72）、鳥取県（1.69）、熊本県（1.68）が高く、東京都（1.17）、京都府（1.26）、北海道（1.29）、宮城県（1.31）、埼玉県（1.34）、神奈川県（1.34）、大阪府（1.34）が低くなっている（表5、図3）。

表4-1 合計特殊出生率の年次推移（年齢階級別内訳）

年 齢	合 計 特 殊 出 生 率							対前年増減		
	昭和60年	平成7年	17	24	25	26	27	25年-24年	26年-25年	27年-26年
総 数	1.76	1.42	1.26	1.41	1.43	1.42	1.46	0.02	△ 0.01	0.04
15～19 歳	0.0229	0.0185	0.0253	0.0219	0.0221	0.0224	0.0207	0.0002	0.0003	△ 0.0017
20～24	0.3173	0.2022	0.1823	0.1607	0.1555	0.1487	0.1449	△ 0.0052	△ 0.0068	△ 0.0038
25～29	0.8897	0.5880	0.4228	0.4325	0.4298	0.4204	0.4237	△ 0.0027	△ 0.0094	0.0033
30～34	0.4397	0.4677	0.4285	0.4916	0.5016	0.5033	0.5215	0.0100	0.0017	0.0182
35～39	0.0846	0.1311	0.1761	0.2525	0.2677	0.2747	0.2878	0.0152	0.0070	0.0131
40～44	0.0094	0.0148	0.0242	0.0448	0.0486	0.0516	0.0558	0.0038	0.0030	0.0042
45～49	0.0003	0.0004	0.0008	0.0012	0.0013	0.0014	0.0015	0.0001	0.0001	0.0001

注：年齢階級別の数値は各歳別出生率を合計したものであり、15歳及び49歳にはそれぞれ14歳以下、50歳以上を含んでいる。

表4-2 出生順位別にみた合計特殊出生率の年次推移

出生順位	合 計 特 殊 出 生 率							対前年増減		
	昭和60年	平成7年	17	24	25	26	27	25年-24年	26年-25年	27年-26年
総 数	1.76	1.42	1.26	1.41	1.43	1.42	1.46	0.02	△ 0.01	0.04
第 1 子	0.7611	0.6607	0.6240	0.6781	0.6871	0.6914	0.7109	0.0090	0.0043	0.0195
第 2 子	0.6950	0.5209	0.4643	0.5095	0.5174	0.5088	0.5177	0.0079	△ 0.0086	0.0089
第3子以上	0.3078	0.2410	0.1717	0.2176	0.2221	0.2222	0.2272	0.0045	0.0001	0.0050

図2 合計特殊出生率の年次推移（年齢階級別内訳）

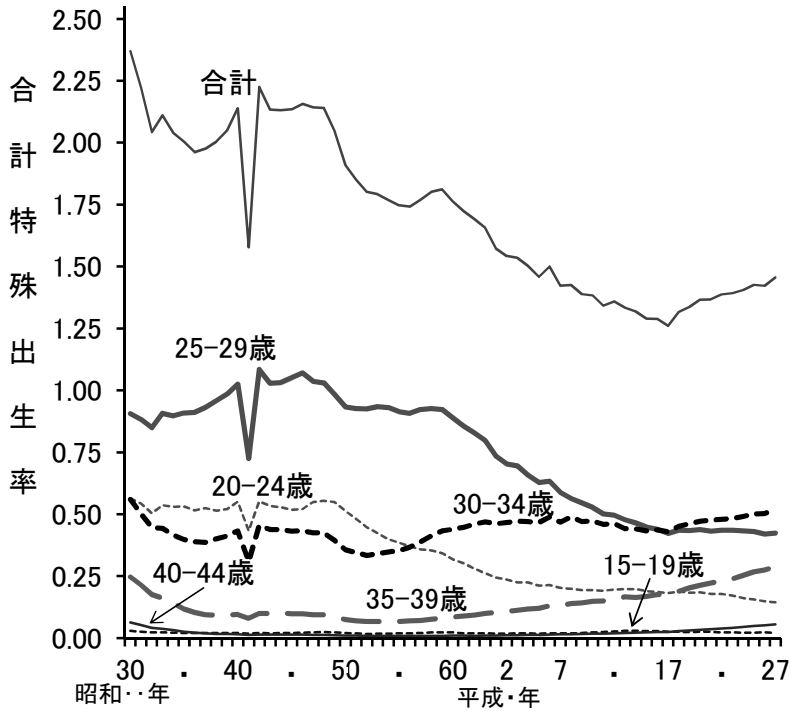
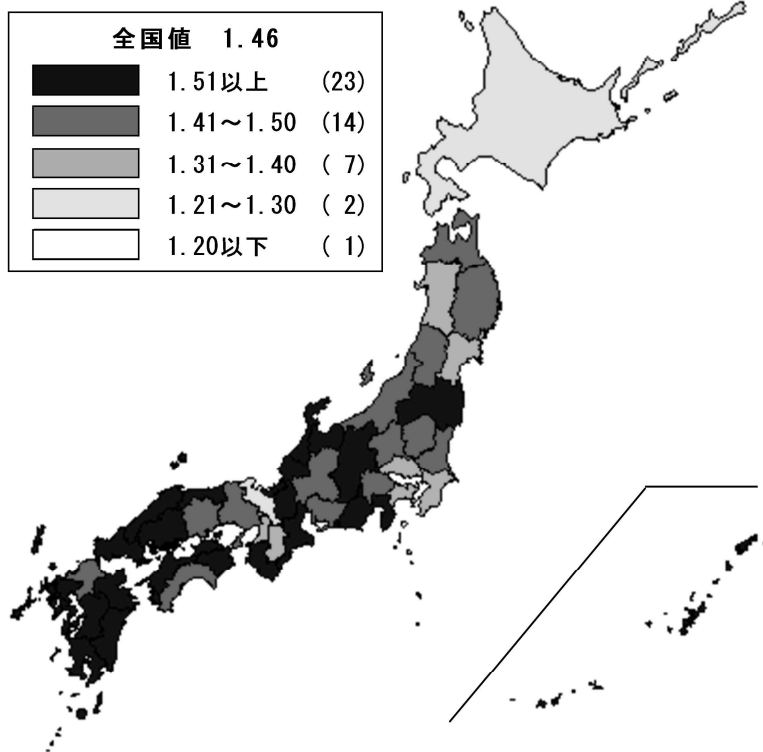


表5 都道府県別にみた合計特殊出生率

都道府県	平成27年	平成26年
全 国	1.46	1.42
北 海 道	1.29	1.27
青 森 県	1.43	1.42
岩 手 県	1.50	1.44
宮 城 県	1.31	1.30
秋 田 県	1.38	1.34
山 形 県	1.50	1.47
福 島 県	1.60	1.58
茨 城 県	1.46	1.43
栃 木 県	1.48	1.46
群 馬 県	1.47	1.44
埼 千 葉 京 奈 新	1.34	1.31
東 葉 京 奈 新	1.35	1.32
神 東 京 奈 新	1.17	1.15
川 東 京 奈 新	1.34	1.31
鴻 東 京 奈 新	1.47	1.43
富 山 山 川 福 山 山 長	1.51	1.45
山 川 山 川 福 山 山 長	1.51	1.45
井 井 井 井 井	1.63	1.55
梨 梨 梨 梨 梨	1.46	1.43
野 野 野 野 野	1.58	1.54
岐 静 愛 三 滋	1.49	1.42
阜 岡 知 重 賀	1.54	1.50
岡 知 重 賀	1.49	1.46
重 賀 重 賀	1.51	1.45
賀 賀 賀 賀	1.57	1.53
京 大 兵 奈 和 歌	1.26	1.24
都 阪 庫 良 山	1.34	1.31
阪 庫 良 山	1.43	1.41
奈 良 山	1.35	1.27
和 山	1.58	1.55
鳥 島 岡 山 山 山	1.69	1.60
島 山 山 山 山	1.80	1.66
岡 山 山 山 山	1.49	1.49
山 山 山 山 山	1.57	1.55
山 山 山 山 山	1.61	1.54
徳 香 愛 高 福	1.55	1.46
香 愛 高 福	1.64	1.57
愛 高 福	1.51	1.50
高 福	1.50	1.45
福 岡	1.48	1.46
佐 長 熊 大 宮	1.67	1.63
長 熊 大 宮	1.67	1.66
熊 大 宮	1.68	1.64
大 宮	1.60	1.57
宮 崎 本 分 崎	1.72	1.69
鹿 児 島 沖 縄	1.65	1.62
児 島 沖 縄	1.94	1.86

図3 都道府県別合計特殊出生率（平成27年）



注：分母に用いた人口は、平成27年全国は、総務省統計局の資料に基づき、厚生労働省大臣官房統計情報部 人口動態・保健社会統計課で推計した各歳別日本人人口、都道府県は5歳階級別総人口。平成26年全国は、「人口推計（平成26年10月1日現在）」（総務省統計局）各歳別日本人人口、都道府県は5歳階級別総人口。

3 死亡

(1) 死亡数・死亡率

平成27年の死亡数は129万428人で、前年の127万3004人より1万7424人増加し、死亡率（人口千対）は10.3で、前年の10.1より上昇している。

死亡数の年次推移をみると、昭和50年代後半から増加傾向となり、平成15年に100万人を超え、平成23年以降は120万人台となっている。

75歳以上の高齢者の死亡数は、昭和50年代後半から増加しており、平成24年からは全死亡数の7割を超えている。

死亡率（人口10万対）を年齢（5歳階級）別にみると、15～19歳、70～74歳及び100歳以上の各年齢階級で前年より増加している。（図4、表6-1）

死亡率性比（男の死亡率／女の死亡率×100）を年齢（5歳階級）別にみると、全年齢階級で100以上となっており、15～29歳と55～79歳の各年齢階級では、男の死亡率が女の死亡率の2倍以上となっている（表6-2）。

図4 死亡数及び死亡率の年次推移

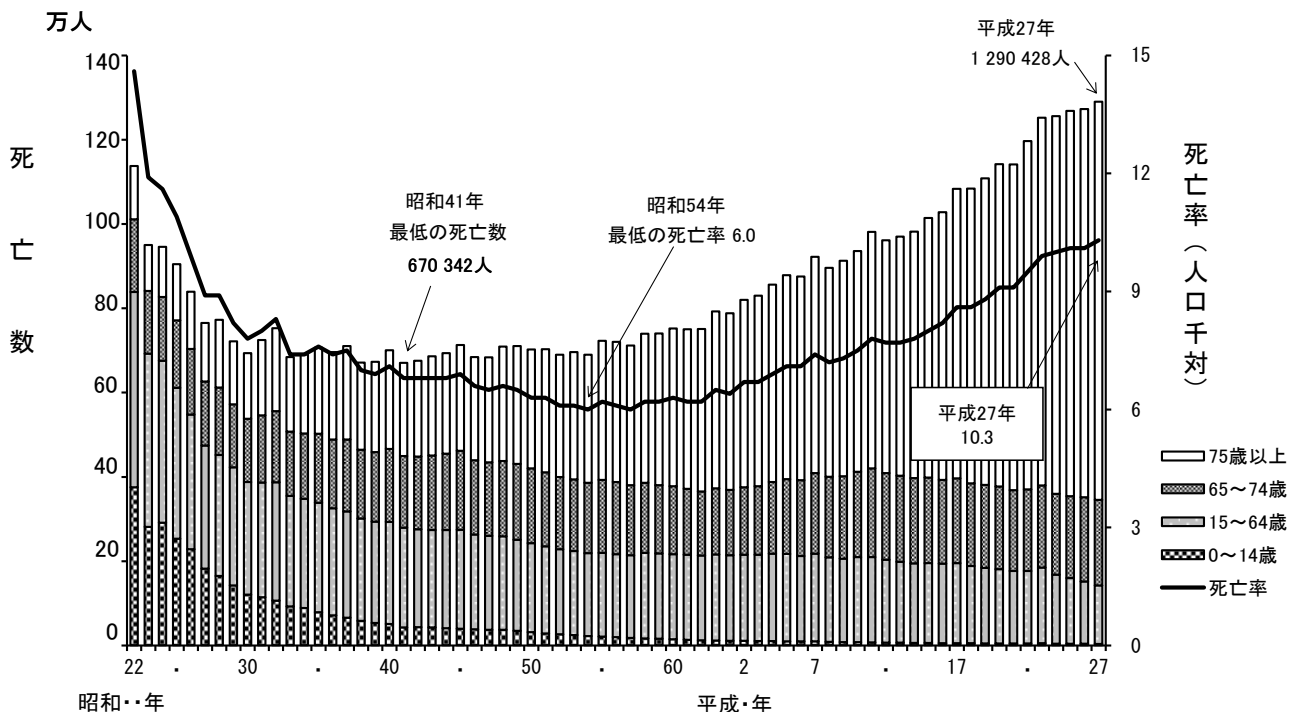


表6-1 年齢（5歳階級）別にみた死亡数・死亡率（人口10万対）

年齢階級	死亡数（人）			死亡率		
	平成27年	平成26年	対前年増減	平成27年	平成26年	対前年増減
総数	1 290 428	1 273 004	17 424	1 029.4	1 014.9	14.5
0～4歳	2 692	2 883	△ 191	52.4	55.9	△ 3.5
5～9	452	460	△ 8	8.6	8.7	△ 0.1
10～14	470	501	△ 31	8.5	8.8	△ 0.3
15～19	1 220	1 205	15	20.7	20.3	0.4
20～24	2 101	2 320	△ 219	35.0	38.7	△ 3.7
25～29	2 615	2 873	△ 258	41.6	44.5	△ 2.9
30～34	3 548	3 896	△ 348	49.7	53.5	△ 3.8
35～39	5 403	5 879	△ 476	65.9	69.1	△ 3.2
40～44	9 769	10 065	△ 296	101.1	104.4	△ 3.3
45～49	13 540	13 726	△ 186	157.3	161.9	△ 4.6
50～54	19 717	19 841	△ 124	249.7	258.1	△ 8.4
55～59	28 736	30 315	△ 1 579	383.5	399.9	△ 16.4
60～64	52 215	57 310	△ 5 095	618.2	642.5	△ 24.3
65～69	88 280	85 193	3 087	912.1	935.5	△ 23.4
70～74	114 307	114 866	△ 559	1 474.5	1 455.3	19.2
75～79	153 461	156 782	△ 3 321	2 420.9	2 510.9	△ 90.0
80～84	222 451	221 045	1 406	4 441.9	4 552.9	△ 111.0
85～89	256 250	249 725	6 525	8 091.3	8 177.0	△ 85.7
90～94	197 170	186 121	11 049	14 225.8	14 295.0	△ 69.2
95～99	90 727	84 117	6 610	23 323.1	23 965.0	△ 641.9
100歳以上	24 825	23 411	1 414	40 040.3	39 018.3	1 022.0

注：総数には年齢不詳を含む。

表6-2 性・年齢（5歳階級）別にみた死亡数・死亡率
（人口10万対）・死亡率性比（平成27年）

年齢階級	死亡数（人）		死亡率		死亡率性比
	男	女	男	女	
総数	666 704	623 724	1 092.8	969.2	112.8
0～4歳	1 473	1 219	55.9	48.7	114.8
5～9	253	199	9.4	7.8	120.5
10～14	267	203	9.4	7.5	125.3
15～19	836	384	27.7	13.4	206.7
20～24	1 515	586	49.1	20.1	244.3
25～29	1 785	830	55.4	27.0	205.2
30～34	2 324	1 224	64.0	34.9	183.4
35～39	3 456	1 947	82.9	48.3	171.6
40～44	6 213	3 556	126.6	74.8	169.3
45～49	8 657	4 883	198.9	114.7	173.4
50～54	12 837	6 880	323.7	175.2	184.8
55～59	19 462	9 274	521.9	246.4	211.8
60～64	36 139	16 076	870.6	374.2	232.7
65～69	61 419	26 861	1 314.1	536.6	244.9
70～74	76 904	37 403	2 133.3	901.9	236.5
75～79	96 965	56 496	3 447.0	1 602.3	215.1
80～84	126 757	95 694	6 296.9	3 196.2	197.0
85～89	120 810	135 440	11 206.9	6 483.5	172.9
90～94	64 596	132 574	18 832.7	12 710.8	148.2
95～99	19 915	70 812	28 862.3	22 128.8	130.4
100歳以上	3 743	21 082	46 787.5	39 040.7	119.8

注：1）総数には年齢不詳を含む。

2）死亡率性比＝男の死亡率／女の死亡率×100

(2) 死因

① 死因順位

平成 27 年の死亡数を死因順位別にみると、第 1 位は悪性新生物で 37 万 131 人（死亡率（人口 10 万対）は 295.2）、第 2 位は心疾患 19 万 5933 人（同 156.3）、第 3 位は肺炎 12 万 846 人（同 96.4）、第 4 位は脳血管疾患で、11 万 1875 人（同 89.2）となっている（表 7）。

主な死因の年次推移をみると、悪性新生物は一貫して増加しており、昭和 56 年以降死因順位第 1 位となっている。平成 27 年の全死亡者に占める割合は 28.7%であり、全死亡者のおよそ 3.5 人に 1 人は悪性新生物で死亡している。

心疾患は、昭和 60 年に脳血管疾患にかわり第 2 位となり、その後も死亡数・死亡率ともに増加傾向が続き、平成 27 年は全死亡者に占める割合は 15.2%となっている。

肺炎は昭和 55 年に不慮の事故にかわって第 4 位となり、その後も増加傾向が続き、平成 23 年には脳血管疾患にかわり第 3 位となり、平成 27 年の全死亡者に占める割合は 9.4%となっている。

脳血管疾患は、昭和 45 年をピークに減少しはじめ、昭和 56 年には悪性新生物にかわり第 2 位となり、その後も死亡数・死亡率とも減少傾向が続き、昭和 60 年には心疾患にかわって第 3 位、平成 23 年には肺炎にかわり第 4 位となり、平成 27 年の全死亡者に占める割合は 8.7%となっている。（図 5、図 6）

図 5 主な死因別死亡数の割合（平成 27 年）

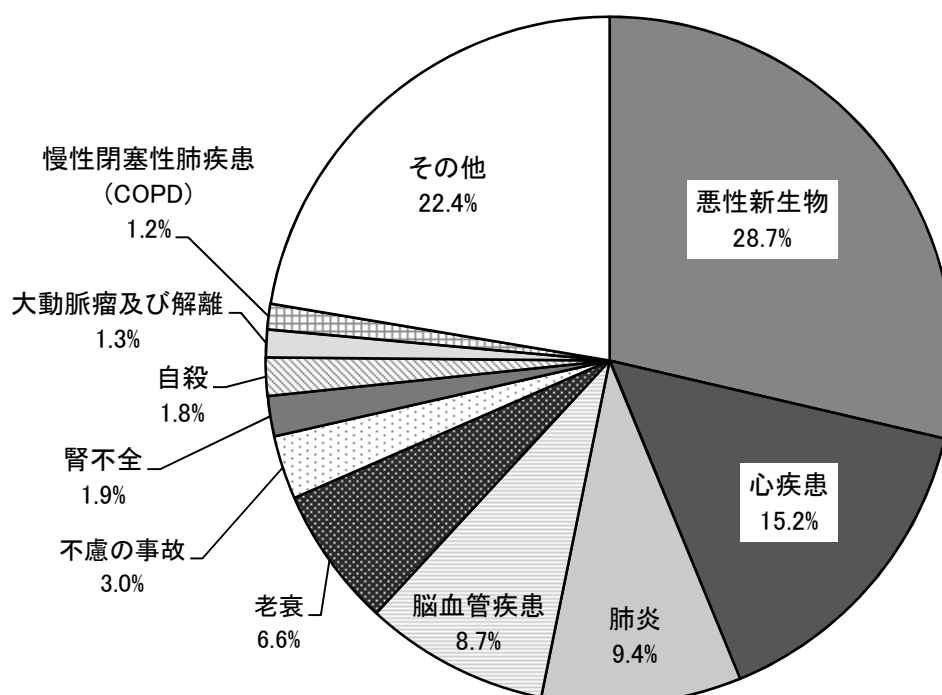
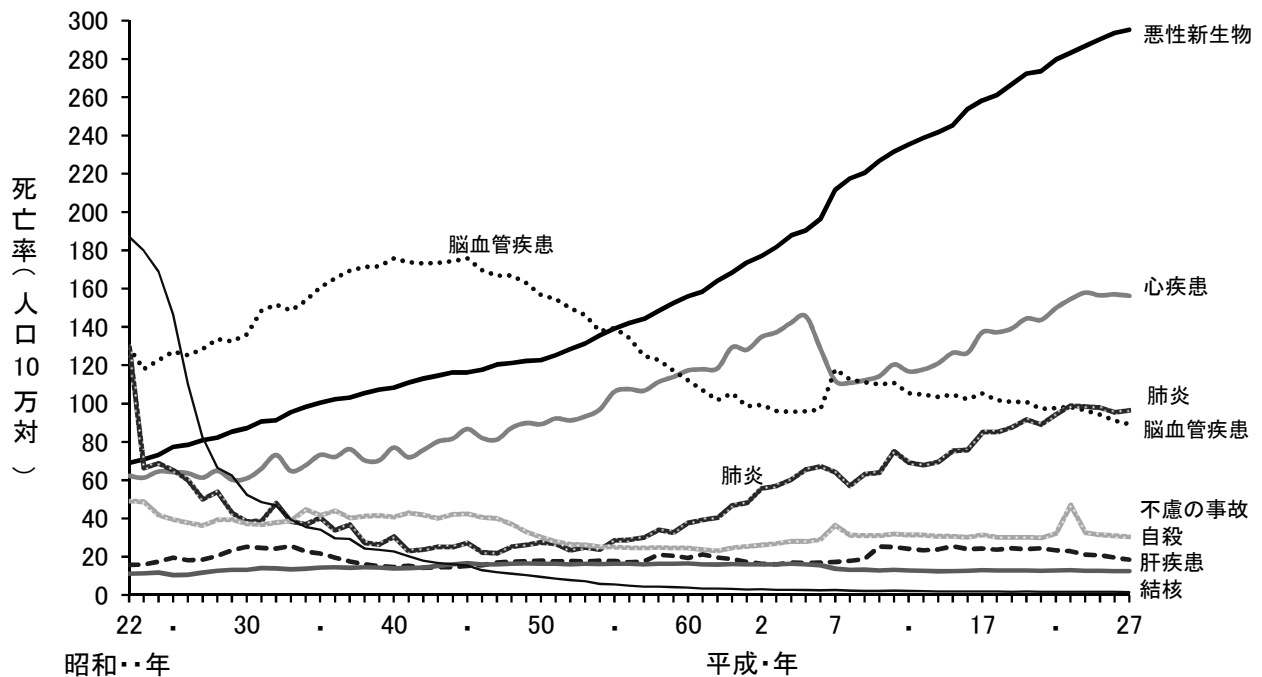


表7 性別にみた死因順位別死亡数・死亡率（人口10万対）

死 因	平成27年						平成26年	
	総 数		男		女		総 数	
	死亡数(人)	死亡率	死亡数(人)	死亡率	死亡数(人)	死亡率	死亡数(人)	死亡率
全 死 因	1 290 428	1029.4	666 704	1092.8	623 724	969.2	1 273 004	1014.9
悪 性 新 生 物	(1) 370 131	295.2	(1) 219 390	359.6	(1) 150 741	234.2	(1) 368 103	293.5
心 疾 患	(2) 195 933	156.3	(2) 92 034	150.9	(2) 103 899	161.4	(2) 196 925	157.0
肺 炎	(3) 120 846	96.4	(3) 65 552	107.4	(5) 55 294	85.9	(3) 119 650	95.4
脳 血 管 疾 患	(4) 111 875	89.2	(4) 53 519	87.7	(4) 58 356	90.7	(4) 114 207	91.1
老 衰	(5) 84 755	67.6	(6) 20 879	34.2	(3) 63 876	99.3	(5) 75 389	60.1
不慮の事故	(6) 38 195	30.5	(5) 22 098	36.2	(6) 16 097	25.0	(6) 39 029	31.1
腎 不 全	(7) 24 532	19.6	(9) 11 888	19.5	(7) 12 644	19.6	(7) 24 776	19.8
自 殺	(8) 23 121	18.4	(7) 16 183	26.5	(11) 6 938	10.8	(8) 24 417	19.5
大動脈瘤及び解離	(9) 16 865	13.5	(11) 8 602	14.1	(8) 8 263	12.8	(9) 16 423	13.1
慢性閉塞性肺疾患 (COPD)	(10) 15 749	12.6	(8) 12 647	20.7	(20) 3 102	4.8	(10) 16 184	12.9

注：1) () 内の数字は死因順位を示す。
 2) 男の10位は「肝疾患」で死亡数は9 992、死亡率は16.4である。
 3) 女の9位は「血管性及び詳細不明の認知症」で死亡数は7 955、死亡率は12.4である。
 4) 女の10位は「アルツハイマー病」で死亡数は7 226、死亡率は11.2である。
 5) 「結核」は死亡数が1 955、死亡率は1.6で第29位となっている。
 6) 「熱中症」は死亡数が967、死亡率は0.8である。

図6 主な死因別にみた死亡率（人口10万対）の年次推移



注：1) 平成6・7年の心疾患の低下は、死亡診断書（死体検案書）（平成7年1月施行）において「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの施行前からの周知の影響によるものと考えられる。
 2) 平成7年の脳血管疾患の上昇の主な要因は、ICD-10（平成7年1月適用）による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

② 年齢別死因

性・年齢（5歳階級）別に主な死因の構成割合をみると、5～9歳では悪性新生物及び不慮の事故、10～14歳では悪性新生物及び自殺、15～29歳では自殺及び不慮の事故、30～49歳では悪性新生物及び自殺がそれぞれ多くなっている。年齢が高くなるにしたがって、悪性新生物の占める割合が高くなり、男では65～69歳、女では55～59歳がピークとなっている。（図7-1）

1歳未満の乳児死亡数は11年連続で3000人を下回り、死因別構成割合では、男女とも「先天奇形、変形及び染色体異常」の占める割合が多くなっている（図7-2）。

図7-1 性・年齢階級別にみた主な死因の構成割合（平成27年）

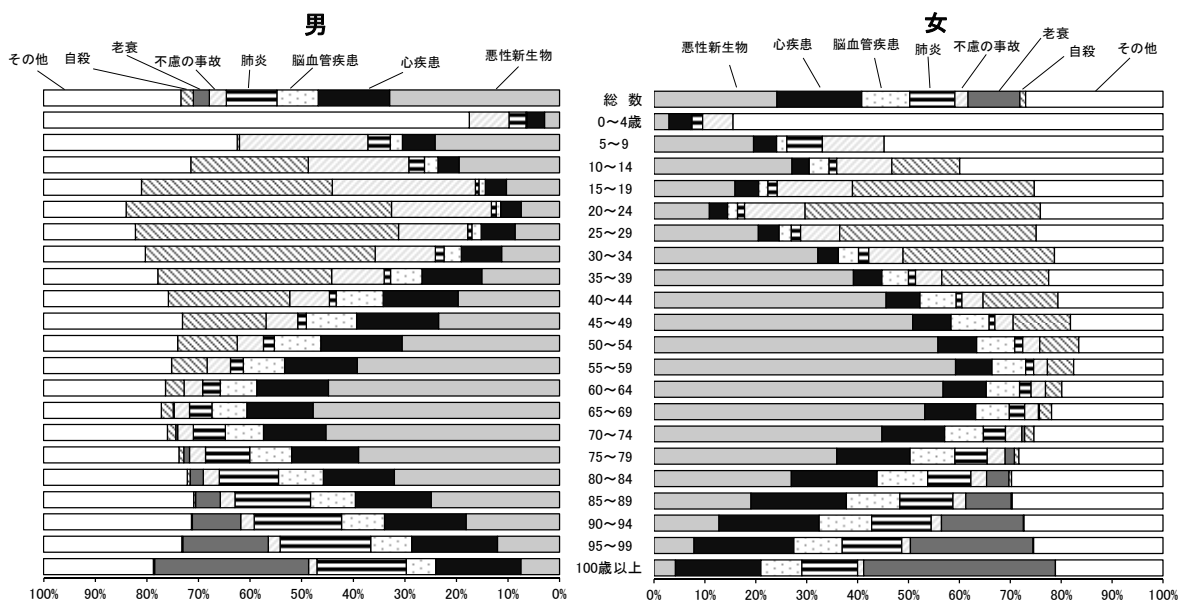
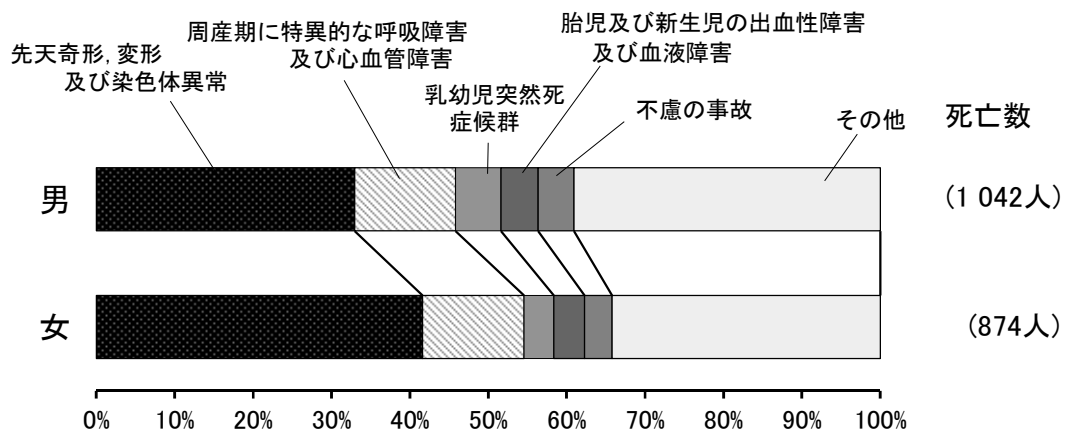


図7-2 乳児死亡の主な死因の構成割合（平成27年）



③ 部位別にみた悪性新生物

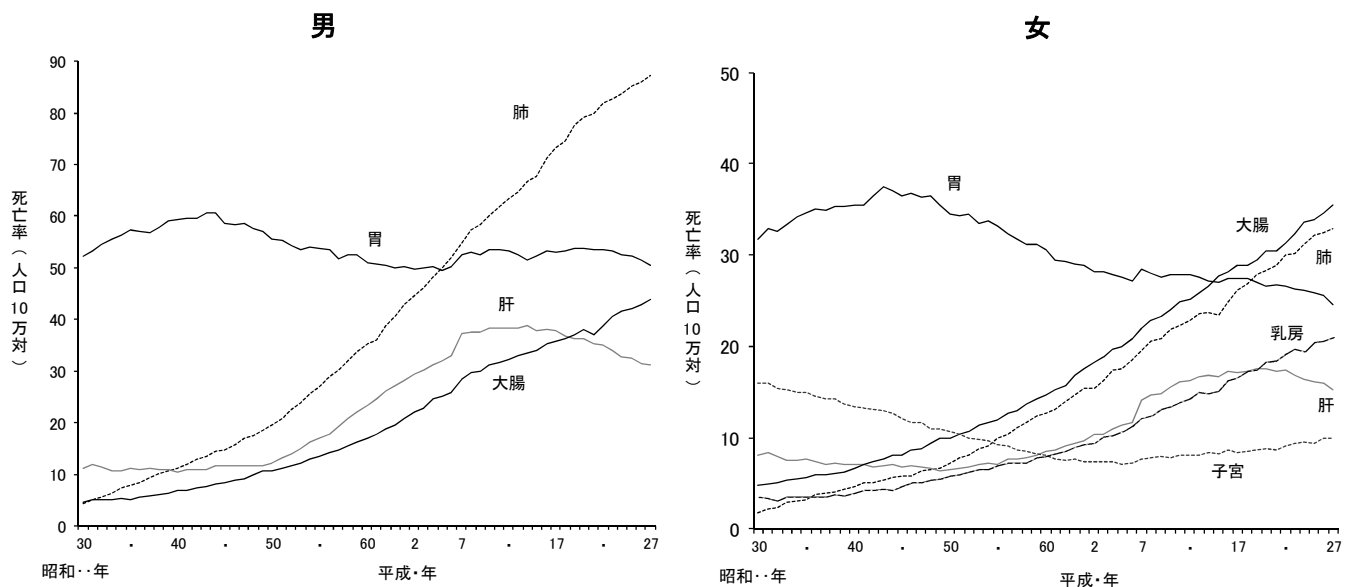
悪性新生物の主な部位別に死亡率（人口10万対）をみると、男では「肺」がもっとも高く、平成5年以降第1位となり、平成27年の死亡数は5万3170人、死亡率は87.2となっている。女では「大腸」と「肺」が高く、「大腸」は平成15年以降第1位となり、平成27年の死亡数は2万2867人、死亡率は35.5となっている。（表8、図8）

表8 悪性新生物の主な部位別にみた死亡数・死亡率（人口10万対）

部位	昭和40年	50	60	平成7年	17	24	25	26	27
死 亡 数 （人）									
男									
胃	28 636	30 403	30 146	32 015	32 643	32 206	31 978	31 483	30 797
肝	5 006	6 677	13 780	22 773	23 203	20 060	19 816	19 208	19 001
肺	5 404	10 711	20 837	33 389	45 189	51 372	52 054	52 505	53 170
大腸	3 265	5 799	10 112	17 312	22 146	25 529	25 808	26 177	26 798
女									
胃	17 749	19 454	18 756	18 061	17 668	16 923	16 654	16 420	15 862
肝	3 499	3 696	5 192	8 934	11 065	10 630	10 359	10 335	9 875
肺	2 321	4 048	7 753	12 356	16 874	20 146	20 680	20 891	21 164
乳房	1 966	3 262	4 922	7 763	10 721	12 529	13 148	13 240	13 574
子宮	6 689	6 075	4 912	4 865	5 381	6 113	6 033	6 429	6 427
大腸	3 335	5 654	8 926	13 962	18 684	21 747	21 846	22 308	22 867
死 亡 率 （人 口 10 万 対）									
男									
胃	59.4	55.6	51.1	52.6	53.0	52.5	52.3	51.6	50.5
肝	10.4	12.2	23.3	37.4	37.7	32.7	32.4	31.5	31.1
肺	11.2	19.6	35.3	54.8	73.3	83.8	85.1	86.0	87.2
大腸	6.8	10.6	17.1	28.4	35.9	41.6	42.2	42.9	43.9
女									
胃	35.5	34.4	30.6	28.5	27.4	26.2	25.8	25.5	24.6
肝	7.0	6.5	8.5	14.1	17.1	16.4	16.1	16.1	15.3
肺	4.6	7.2	12.7	19.5	26.1	31.2	32.1	32.4	32.9
乳房	3.9	5.8	8.0	12.2	16.6	19.4	20.4	20.6	21.1
子宮	13.4	10.7	8.0	7.7	8.3	9.5	9.4	10.0	10.0
大腸	6.7	10.0	14.6	22.0	28.9	33.6	33.9	34.6	35.5

注：大腸の悪性新生物は、結腸の悪性新生物と直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物を示す。

図8 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口10万対）の年次推移



4 婚姻

平成 27 年の婚姻件数は 63 万 5096 組で、前年の 64 万 3749 組より 8653 組減少し、婚姻率（人口千対）は 5.1 で、前年と同率となっている。

婚姻件数の年次推移をみると、昭和 47 年の 109 万 9984 組をピークに、昭和 50 年代以降は増加と減少を繰り返しながら推移し、平成 25 年から 3 年連続減少している。（図 9）

初婚の妻の年齢（各歳）別に婚姻件数の構成割合を 10 年ごとに比較すると、ピーク時の年齢が上昇するとともに、その年齢の占める割合が低下し、高い年齢の割合が上昇している（図 10）。

年齢（5 歳階級）別に妻の初婚率（女性人口千対）をみると、前年に比べ 20～34 歳の各年齢階級で低下しているが、35～39 歳では上昇している（表 9）。

平成 27 年の平均初婚年齢は、夫 31.1 歳、妻 29.4 歳で、夫妻ともに前年と同年齢となっている（表 10-1）。

これを都道府県別にみると、平均初婚年齢が最も低いのは、夫が宮崎県の 29.9 歳、妻が福島県及び山口県の 28.6 歳であり、最も高いのは夫妻とも東京都で、夫 32.4 歳、妻 30.5 歳となっている（表 10-2）。

再婚件数の割合をみると、夫 19.7%、妻 16.8%で、前年より夫は 0.4 ポイント、妻は 0.2 ポイント上昇している（表 11）。

図 9 婚姻件数及び婚姻率の年次推移

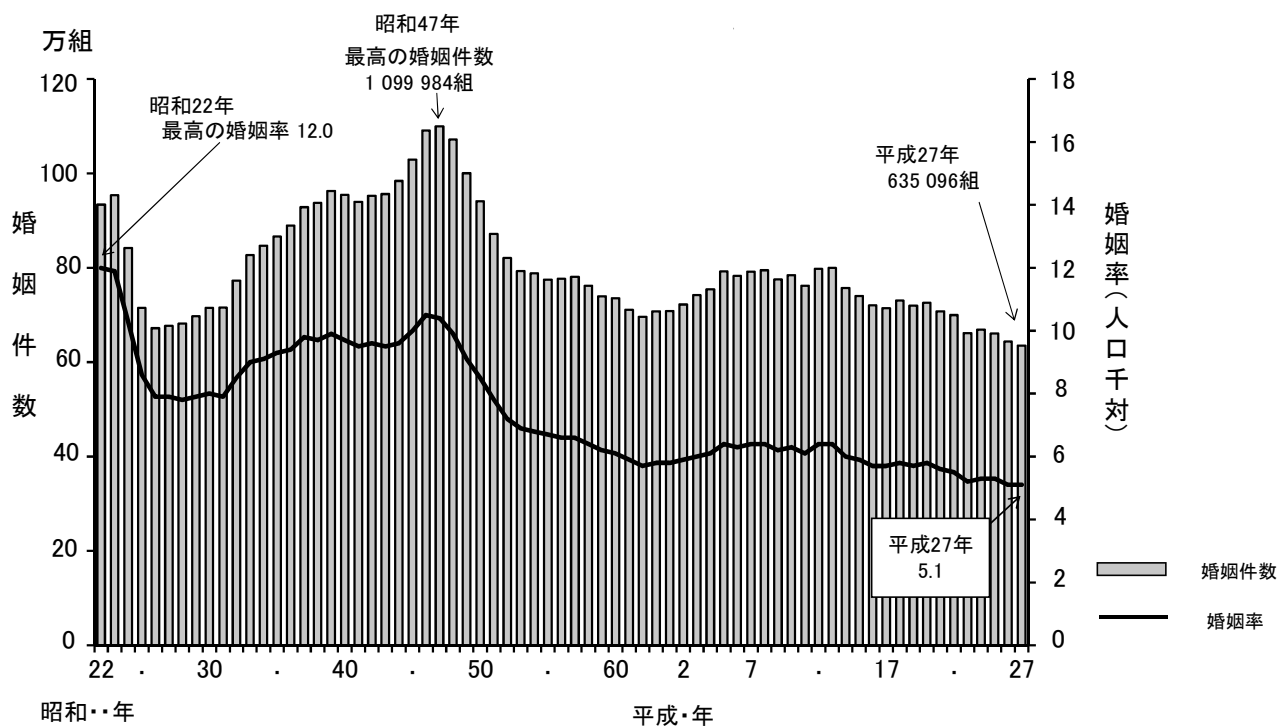
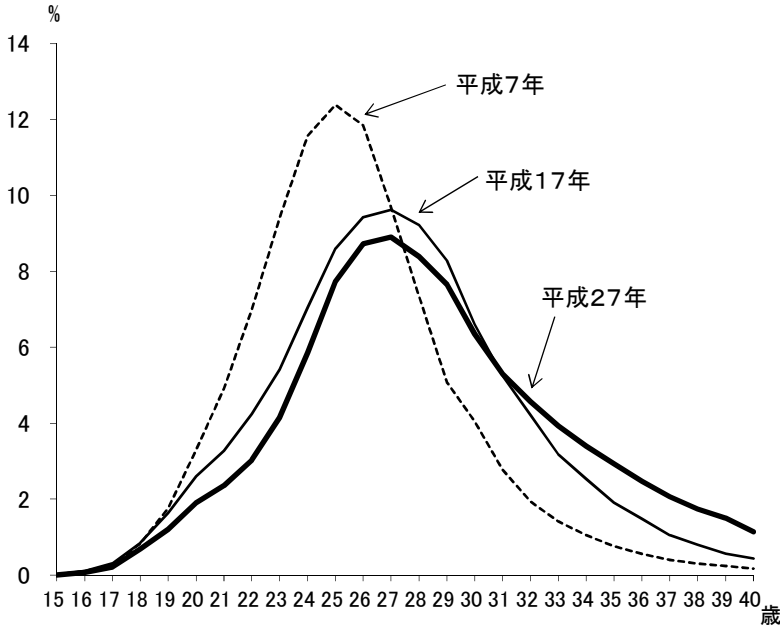


図 10 初婚の妻の年齢（各歳）別婚姻件数の構成割合



注：各届出年に結婚生活に入ったもの。

表 9 年齢（5歳階級）別にみた妻の初婚率（女性人口千対）の年次推移

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
平成 7 年	48.89	70.64	18.45	3.84
17	34.12	60.06	24.41	7.24
23	29.48	58.04	27.80	9.68
24	28.70	59.27	29.15	10.50
25	27.86	59.41	29.76	11.04
26	26.49	58.56	29.31	11.25
27	25.66	58.31	29.06	11.49

注：各届出年に結婚生活に入ったもの。

表 11 全婚姻件数に対する再婚件数の割合の年次推移

	夫	妻
	%	%
平成 7 年	13.2	11.6
17	18.2	16.0
23	18.8	16.4
24	19.0	16.4
25	19.2	16.5
26	19.3	16.6
27	19.7	16.8

表 10-1 平均初婚年齢の年次推移

	夫	妻
	歳	歳
平成 7 年	28.5	26.3
17	29.8	28.0
23	30.7	29.0
24	30.8	29.2
25	30.9	29.3
26	31.1	29.4
27	31.1	29.4

注：各届出年に結婚生活に入ったもの。

表 10-2 都道府県別にみた平均初婚年齢（平成 27 年）

都道府県	夫	妻
	歳	歳
北海道	30.7	29.3
青森	30.6	28.9
岩手	30.9	29.0
宮城	30.8	29.3
秋田	30.8	29.3
山形	30.6	28.8
福島	30.3	28.6
茨城	30.8	29.1
栃木	30.9	29.1
群馬	31.0	29.2
埼玉	31.5	29.6
千葉	31.5	29.6
東京都	32.4	30.5
神奈川県	31.9	30.1
新潟	30.8	29.3
富山	30.8	29.1
石川	30.7	29.1
福井	30.6	28.9
山梨	31.3	29.3
長野	31.3	29.5
岐阜	30.6	28.7
静岡県	31.0	29.2
愛知県	30.8	29.0
三重	30.7	28.9
滋賀	30.7	29.1
京都府	31.3	29.7
大阪府	31.1	29.6
兵庫県	30.8	29.3
奈良	31.0	29.4
和歌山	30.2	28.7
鳥取	30.8	29.0
島根	30.4	29.1
岡山	30.2	28.8
広島	30.3	28.9
山口	30.1	28.6
徳島	30.6	29.0
香川	30.2	28.9
愛媛	30.2	28.7
高知	31.3	29.7
福岡	30.7	29.4
佐賀	30.2	28.9
長崎	30.3	29.1
熊本	30.3	29.0
大分	30.3	29.0
宮崎	29.9	28.7
鹿児島	30.4	29.0
沖縄	30.3	29.0

注：平成27年に結婚生活に入ったもの。

5 離婚

平成27年の離婚件数は22万6198組で、前年の22万2107組より4091組増加し、離婚率（人口千対）は1.80で、前年の1.77より上昇している。

離婚件数の年次推移をみると、昭和39年以降毎年増加を続けたが、昭和59年から減少している。平成に入ってから再び増加傾向にあったが、平成14年の28万9836組をピークに減少傾向が続いている。（図11）

同居期間別に離婚件数をみると、平成27年はすべての同居期間で前年より増加している（表12、図12）。

図11 離婚件数及び離婚率の年次推移

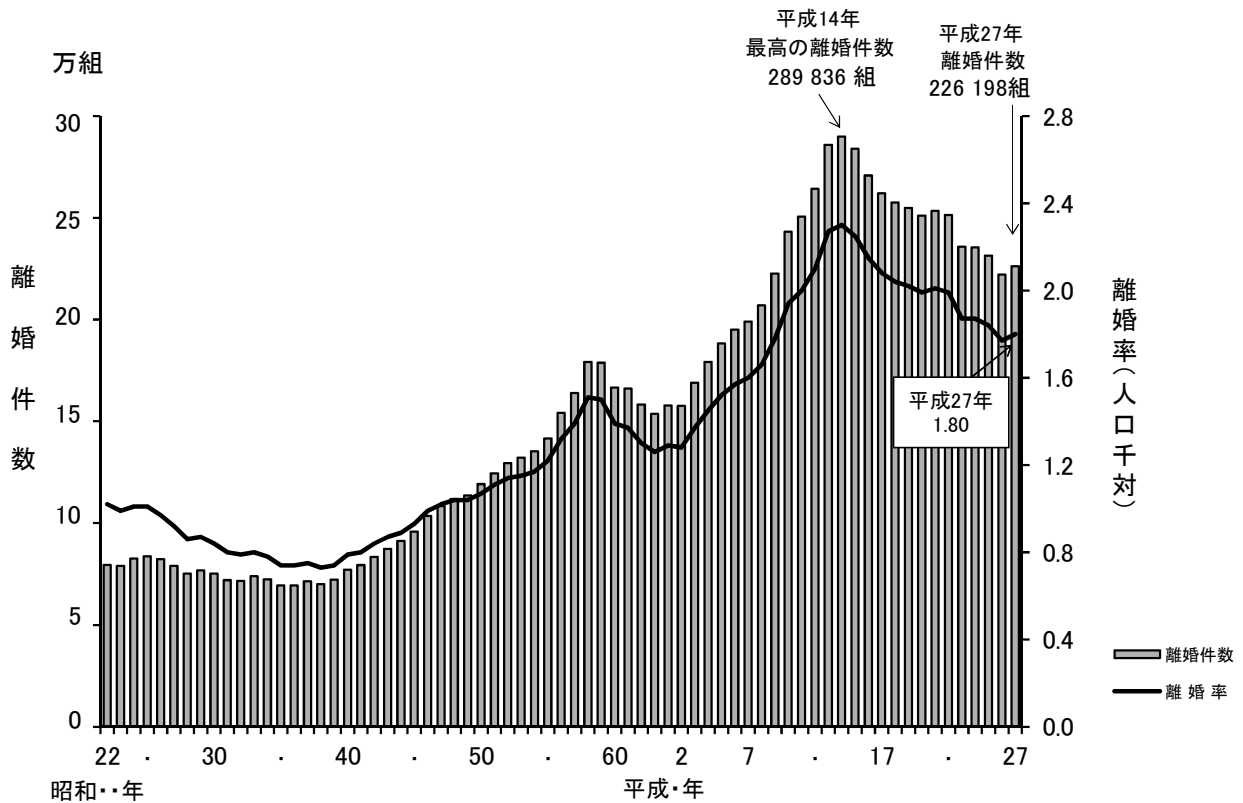


表 12 同居期間別離婚件数の年次推移

同居期間	昭和60年	平成7年	17	24	25	26	27	対前年(27年-26年)	
	組	組	組	組	組	組	組	増減数	増減率
総数	166 640	199 016	261 917	235 406	231 383	222 107	226 198	4 091	1.8
5年未満	56 442	76 710	90 885	76 128	74 034	70 056	71 717	1 661	2.4
1年未満	12 656	14 893	16 558	14 459	14 333	13 499	13 862	363	2.7
1～2	12 817	18 081	20 159	16 810	16 374	15 779	16 270	491	3.1
2～3	11 710	16 591	19 435	16 010	15 423	14 910	15 350	440	3.0
3～4	10 434	14 576	18 144	14 961	14 533	13 489	13 808	319	2.4
4～5	8 825	12 569	16 589	13 888	13 371	12 379	12 427	48	0.4
5～10年未満	35 338	41 185	57 562	48 437	48 422	46 389	47 077	688	1.5
10～15年未満	32 310	25 308	35 093	33 047	32 554	30 839	31 106	267	0.9
15～20年未満	21 528	19 153	24 885	24 463	23 660	22 905	23 937	1 032	4.5
20年以上	20 434	31 877	40 395	38 557	38 032	36 771	38 641	1 870	5.1
20～25年未満	12 706	17 847	18 401	17 324	17 045	16 535	17 049	514	3.1
25～30	4 827	8 684	10 747	10 149	9 678	9 382	10 011	629	6.7
30～35	1 793	3 506	6 453	5 163	5 203	5 034	5 315	281	5.6
35年以上	1 108	1 840	4 794	5 921	6 106	5 820	6 266	446	7.7

注：総数には同居期間不詳を含む。

図 12 同居期間別離婚件数の年次推移

